



マンホールカード主要配布データ

ゲゲゲの鬼太郎デザイン マンホールカード
調布市役所2階総合案内所、8階下水道課
8時30分～17時15分/土・日曜、祝日、年末年始休/☎042・481・7111
調布市観光案内所「ぬくもりステーション」
9時～16時/平日、年末年始休/☎042・481・7183(調布市商業観光係)

観光データ

布多天神社 6時～17時(夏期は5時30分～、大安の日～20時)、無休、☎042・489・0022 **鬼太郎ひろば** 入園自由(夜間の立ち入りは禁止)、☎042・481・7081(調布市緑と公園課) **深大寺** 9時～17時(釈迦堂は9時～16時、夏期は～17時)、無休、釈迦堂300円、☎042・486・5511 **鬼太郎茶屋** 10時～17時(喫茶は16時30分、妖怪ギャラリーは～16時45分、100円)、月曜休(祝日の場合は翌日休)、☎042・482・4059

学問の神様を祀る布多天神社も鬼太郎ゆかりの地。社殿背後の森の御神域はアニメの舞台となり、「ゲゲゲの鬼太郎が棲む森」と呼ばれている。現在、立ち入り禁止だが、拝殿の横から神聖な森を眺めていると、鬼太郎たちの声が聞こえてくるような気がした。

布多天神社から天神通り商店街を歩いて調布市役所へ。2階の総合受付で、「マンホールカードをください」と言えば気軽にもらえた。絵柄は1種、1人1枚限定だ。

天神通り商店街には、鬼太郎や仲間たちのオブジェが点在しており、のんびり歩いて見つけよう。

2019年にオープンした「鬼太郎ひろば」にも立ち寄りたい。

都内屈指の古刹・深大寺も水木作品にたびたび登場する。門前に名物「深大寺そば」の店が並び、新そばの季節は特ににぎわう。

門前の鬼太郎茶屋に立ち寄り、鬼太郎の顔を描いたカフェラテ「ゲゲゲラテ」600円と、「ぬり壁のみそおでん」400円を味わった。鬼太郎グッズも販売し、マンホールカードとあわせ旅の土産とした。

文・写真/荒井浩幸

(右)店が連なる深大寺の門前。写真左が鬼太郎茶屋(下)鬼太郎、ねずみ男、目玉おやじ、ねこ娘の中から好きな絵柄を選べるカフェラテ「ゲゲゲラテ」と、水木氏の故郷・鳥取県産の有機コンニャクを使ったぬり壁のみそおでん©水木プロ



●体が点在する鬼太郎とその仲間たちのオブジェを探すのが楽しい天神通り商店街 ©水木プロ



1 鬼太郎と目玉おやじ
2 ねこ娘とねずみ男
3 子泣きじい
©水木プロ

マンホールカード

“鬼太郎”ゆかりの街で 気ままにマンホール探し

【東京】調布市

日活調布撮影所デザインのマンホールの蓋



菅原道真公を祀る布多天神社

現地を訪れてもらおう「ご当地カード」が人気を呼んでいる。マンホールカード(囲み参照)もその一つだ。カードの入手を目的の一つに、多彩な絵柄のマンホールの蓋が点在する調布を訪れた。

調布は日活調布撮影所と角川大映スタジオがあり、また「ラゲビィワールドカップ2019 東京大会」の際、パブリックビューイング会場を設営し応援した街。その縁から、映画やワールドカップを記念したマンホールの蓋が調布駅前広場に設置されている。広場の南側に、大魔神などの映画のマンホールの蓋を発見。ラゲビィワールドカップの記念マンホールは、

マンホールカードとは?

「下水道広報プラットフォーム」が下水道のPRに2016年からスタート。「楽しみながら下水道への理解や関心を深めてほしい」という思いに加え、旅の思い出として収集してもらえることを目的に配布している。2020年6月現在、全国667種に及ぶ。■事務局 ☎03・6206・0205



©水木プロ

広場内に点在していた。

調布は、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の作者・水木しげるが亡くなるまで50年以上も暮らした街でもある。布多天神社に向かう電通大通りを歩くと、交差点の角などに鬼太郎と仲間たちを描いたマンホールの蓋が計6基あった。これらの蓋は、2016年の駅前整備の際、マナー向上を呼びかけるために設置したもの。自転車置き場の近くに、子泣きじい「放置自転車はいかんのじゃー!」と訴える蓋があって面白い。